

序章 調査研究の概要

第1章 調査研究を取り巻く環境

背景

■市民意見の聴取の重要性・取組の拡充

これまでの長野市での取組例
「みどりののがき」(1972～)、「まちづくりアンケート」(1982～)等

■既存手法による調査への回答率・回答者における若年層の比率の低下

2021年度 全体：67.1% → 2024年度 全体：49.5% (まちづくりアンケート)
2024年度 18歳～39歳 16.0% / 40歳～59歳 31.2% / 60歳～ 52.5%
(第五次長野市総合計画に関する市民アンケート)

▶ これまでの取組の見直し・新たな市民意見の聴取手法の検討の必要性

第2章 新たな市民意見聴取手法の検討

先進自治体・運営事業者への
ヒアリングから明らかになった利活用のポイント

計画段階	事業全体の流れを踏まえた聴取体制づくり 実施後の意見反映の方法等や取組状況の公開
準備段階	参加者が回答しやすい「問い」の設定 活発な意見投稿を促し、事業への関連性が高い意見の把握につなげる
実施段階	情報発信・広報活動の強化 インターネットを活用した広報、活動情報の紹介で理解促進を図る

参考 デジタルプラットフォームの他都市の状況

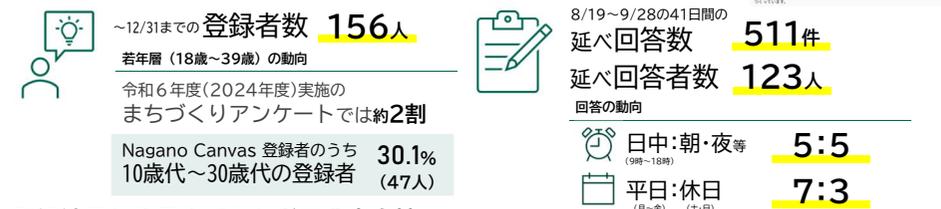
- まちの将来像のあり方など多様な対象で実施
- 登録者数は300未満が大半
- データ集計が容易であることが利点と感ずる団体が多い

第3章 デジタルプラットフォームによる市民意見聴取の実証実験

▶ Nagano Canvas つながる、広がるみんなの想いを開設

方針	総合計画の策定過程・作業部会等でも活用 ○意見は、総合計画策定に向けた会議(作業部会)等で紹介 ○意見の活用状況はNagano Canvas内でも紹介
設問	総合計画の立案・部会の参考となる設問設定 ○10年後など将来も暮らしときにどんなまちだと暮らしやすいですか？ ○10年後など将来も長野市に残したいものはなんですか？
広報	ターゲットごとに広報媒体を変えて周知 ○市公式XやLINE・アプリなどでダイレクトにアクセス案内 ○企業等にメールで実施概要などを周知

意見聴取期間(8/19～9/28)・年内(～12/31)の利用状況

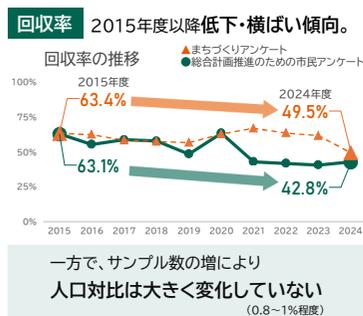


取組結果から見てきた活用の方向性

新しい参加機会の提供で **エンゲージメント強化**に役立つ
書面調査とは異なり **現役世代等の意識・意向の把握**
対面での意見聴取を **補完する活用**
短期間で実施可能な **モニター調査や事前調査**としての活用
匿名性・弱い代表性に課題も

第4章 政策や計画の進捗管理における市民意識調査等の精度向上

長野市における総合計画に関連する市民アンケートの実施状況

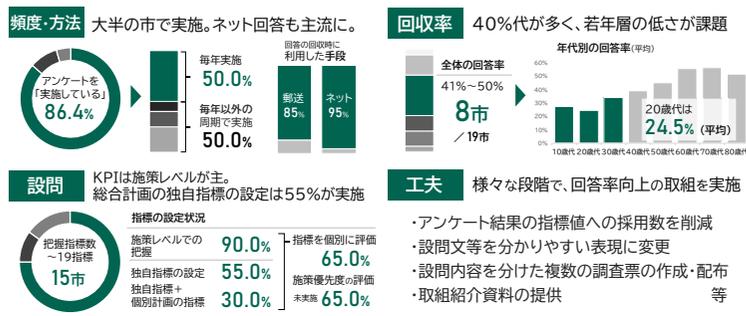


背景 若年層の回答の伸び悩み(20歳代は30～40%台を推移)
督促はがきの取り止め等による中高年層の低下(50歳代は2023年度 63.7%→24年度 46.8%で▲16.9pt)

信頼性 年代別では課題があるも全体では十分
令和6年度(2024年度)実施分のアンケートで分析
●総合計画推進のための市民アンケート
回答率50%時の
全年齢の標本誤差 ±1.9%
20歳代 ±8.2%
30歳代 ±6.3%

背景 年代別のサンプリングの未実施

総合計画に関連する市民アンケートの実施状況調査



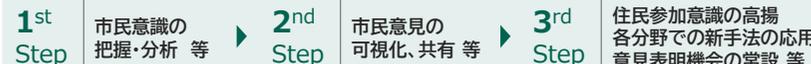
市民意識調査の課題と今後の方向性

現状分析・調査結果	今後の方向性
頻度・方法 2つの調査を毎年実施 1つの調査はウェブ回答が不可	毎年実施するか検討 ウェブ回答等 回答しやすい環境整備の検討
回収率 回収率・率は他市と同程度 ←調査対象者数は他市より多 層化抽出は未実施	調査対象者数の検討 年齢別の分析を考慮した 層化抽出の検討
設問 設問数は他市よりも多 ・アンケートでの把握指標数 多 ・施策の優先度の把握の実施	設問数の削減の検討 ・アンケートでの把握指標数 ・施策の優先度の把握の要否

第5章 新旧の市民意見聴取方法の特性を踏まえた活用の方向性

旧手法	定型的アンケート調査(インターネット回答含む)、 対面ワークショップ、公聴会、 パブリックコメント 等	有効・適切と考えられる分野 ・フェイス・トゥー・フェイスの意見交換が求められる場合 ・ファシリテーションにより議論を収束させていく場合 ・サンプル意見に代表性や客観性が求められる場合 ・法令・条例等により所定の手続を要する場合 ・参加者や協力者を求める場合 ・アンケート調査のプレサurveyを行う場合 ・若年層・現役世代からの意見発信を促したい場合 ・市民間での意見交換の内容を可視化したい場合
新手法	双方向性(ユーザー発信型)のある オンラインコミュニケーションツール	

市民意見聴取から
住民参加のプロセス



新旧手法の連携・補完の3つのパターン



本調査研究で実施の取組